



## 大阪大学社会経済研究所 第20回行動経済学研究センターシンポジウム

7月28日(金) 18:30-20:30 @Zoom【オンライン開催】



大阪大学社会経済研究所は、7月28日(金) 18:30~20:30にオンラインにて「第20回行動経済学研究センターシンポジウム」を開催します。

本シンポジウムは、従来の経済学とは異なる行動経済学研究の知見を社会に還元すべく、大阪大学社会経済研究所が開催している一般参加者向けのイベントです。今年のテーマは、「**ビジネスに使える行動経済学**」です。

行動経済学の知見は、マーケティングをはじめ、ビジネスにも使えそうだけど、どうやって使ったらいいの？ そう思っておられる方は多いのではないのでしょうか？

今回のシンポジウムでは、そんなみなさんの疑問に応えるべく、行動経済学をビジネスで悪用しないために何に気をつけるべきか、また行動経済学を用いたビジネスの具体例などの紹介などを通じて、行動経済学を正しくビジネスに活かしていくヒントを、特に、ナッジの作り方、消費者保護、ビジネス戦略という三つの視点を中心に、3人の専門家にお伺いします。

多くの皆様にご参加いただきたいと存じますので、積極的なご周知とご取材を宜しくお願いいたします。

## Press Release

【タイトル】 大阪大学社会経済研究所 第20回行動経済学研究センターシンポジウム  
「ビジネスに使える行動経済学」

【開催日時】 2023年7月28日(金) 18:30~20:30

【開催形態】 「Zoom(ウエビナー)」を用いたオンライン配信で開催します。(参加無料)

【主催】 大阪大学社会経済研究所 【後援】 一般財団法人 アジア太平洋研究所 (APIR)

【プログラム】

18:30-18:35 開会のご挨拶

18:35-19:00 「ビジネスで使えるナッジの作り方」

大竹文雄 大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤)

19:00-19:25 「行動経済学と消費者保護」

室岡健志 大阪大学大学院国際公共政策研究科 准教授

19:25-19:50 「行動経済学で抜け出すブラック均衡」

安田洋祐 大阪大学大学院経済学研究科 教授

(10分休憩)

20:00-20:25 質疑応答

20:25-20:30 閉会のご挨拶

司会: 花木 伸行

【参加方法】 大阪大学社会経済研究所 WEB サイトよりオンラインでお申込み下さい。

<http://osku.jp/u0712>

【申込開始】 2023年7月7日(金) 12:00 から。但し、定員に達し次第、締切ります。

【備考】 Zoom の機能を使って、参加者からの質問にもライブでお答えする予定です。  
時間の関係で全てのご質問にはお答えできませんがご了承ください。

## 大阪大学 社会経済研究所について

大阪大学社会経済研究所は、世界的にトップレベルの研究を行い、客観的な指標である国際学術誌への論文掲載数や被引用数などで、国内における他の経済・社会科学系附置研究所と比較して一人あたりで数倍の成果をあげるなど、卓越した研究レベルを誇っています。

具体的な研究テーマとしては、景気循環と経済成長、税と社会保障、制度設計に関する研究、企業戦略と産業組織に関する研究などがあり、近年では、不況と失業、不良債権と銀行の貸し渋り、格差問題、健康と医療といった現代社会において非常に重要度の高い研究テーマが分析されています。

2004年より毎年開催している本シンポジウムシリーズでは、私たちの研究成果を広く皆様と共有すべく、これまで「働き方改革」、「少子化問題」、「医療」、「日本経済をどう見るか」、「電力システム改革」、「デジタルプラットフォームの現状と未来」といったテーマを経済学の視点から考えてまいりました。

## 登壇者プロフィール

**大竹文雄 Fumio Ohtake**

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授（常勤）

**講演要旨：**行動経済学やナッジという言葉聞く機会が増えているのではないのでしょうか。講演では実例を使ってナッジとその作り方について解説していきます。身近なところでも使われているので、どのような作り方をしているか考えてみるのもよいかもかもしれません。

**プロフィール：**京都府出身。京都大学経済学部卒業。大阪大学博士（経済学）。大阪大学助手、大阪府立大学講師、大阪大学社会経済研究所教授、大阪大学大学院経済学研究科教授等を経て、2021年から現職。専門は行動経済学・労働経済学。著書に『競争と公平感』『競争社会の歩き方』『経済学は役に立ちますか？』『行動経済学の使い方』『医療現場の行動経済学』『あなたを変える行動経済学』『行動経済学の処方箋』など。近年の研究テーマは行動経済学の政策応用で、医療、教育、労働、防災、防犯、など様々な分野での政策応用を研究しています。最近は忙しすぎるので、気候の良いうちにサイクリングに出かけるようにしています。

**室岡健志 Takeshi Murooka**

大阪大学大学院国際公共政策研究科 准教授

**講演要旨：**行動経済学をマーケティングに用いる際に、消費者から不当に利益を得るようなことを行っていないかが、近年ますます問題になっています。ここでは消費者へのリマインダー（お知らせ）を例に、行動経済学をビジネスで悪用しないためにはどうすればよいか、またビジネスで正しく活用されている例についてお話しします。

**プロフィール：**新潟県出身。筑波大学社会学類卒業、東京大学修士（経済学）、米カリフォルニア大学バークレー校博士（経済学）。独ミュンヘン大学等を経て、2017年から現職。専門は行動経済学、産業組織論、ミクロ経済理論。「行動経済学を組み入れた市場分析およびその競争政策・消費者保護政策への応用」により令和3年度日本学術振興会賞を受賞。著書に『行動経済学』（日本評論社）など。近年の研究テーマは、行動経済学的な要素を取り入れたゲーム理論・市場デザイン等。最近の悩み事はダイエット。1年で5キロ減らしましたが、ここ半年はほぼ停滞しています（一時期3キロ近くリバウンドしました）。

**安田洋祐 Yosuke Yasuda**

大阪大学大学院経済学研究科 教授

**講演要旨：**あなたの組織がブラックな状態に陥ってしまうのは、メンバーが非合理だからではなく、むしろ合理的だからかもしれません。一人ひとりが努力しても抜け出すことができないブラック均衡の罠。そのカラクリとそこから抜け出すための方法を、行動経済学をヒントに一緒に考えましょう！

**プロフィール：**東京都出身。東京大学経済学部卒業。米プリンストン大学 Ph.D.（経済学）。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、2022年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン、産業組織論。著書に『学校選択制のデザイン ゲーム理論アプローチ』（編著）、『そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。』（共著）、『オークション・デザイン ものの値段はこう決める』（監修）など。近年の研究テーマは、大学入試のマッチング理論分析、リニエンシー制度と談合の動学ゲーム理論分析。最近の一番の悩み事は、そろそろ PlayStation5 を買うべきか否か。シンポジウムまでに買ってしまっているかもしれません（笑）

## 司会者プロフィール



**花木 伸行 Nobuyuki Hanaki**

**大阪大学社会経済研究所 教授、同研究所行動経済学研究センター センター長**

**プロフィール:** 大阪府出身。筑波大学国際関係学類卒業。米国コロンビア大学大学院修了。博士号（経済学）。2003年筑波大学専任講師、仏エクス-マルセイユ大学教授、仏ニース大学教授等を経て2019年より現職。2020年4月から行動経済学研究センター長を務める。専門は、実験・行動経済学。近年は、学術研究に加えて、社会貢献活動にも積極的に取り組む。フランス在住時には当たり前だった長期休暇取得を日本でどのように行うか思案中です。